



■施工される方へのお願い

●本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。

▲警告

…取付けを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

…取付けを誤った場合に、使用者が中程度の傷害・軽傷を負う危険および物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

■施工上のお願い

●連結部以外の取付けは、手すり本体に同梱の説明書をご覧ください。

※本説明書はアルミ手すりA型で説明しています。アルミ手すりワイドも同様に組立・取付けてください。

●アルミ手すりA型のブラケット取付けねじは本体に同梱されているねじを使用してください。

■部品一覧表

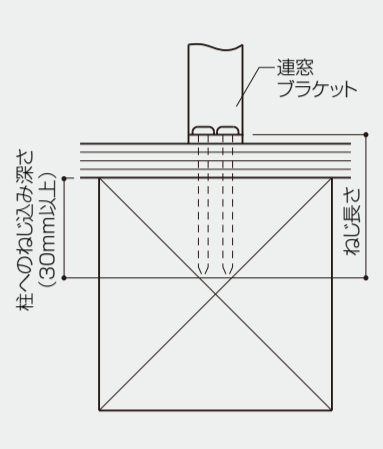
名称	入数	アルミ手すりA型	アルミ手すりワイド
連窓ブラケット	1		
笠木連結ブロック	1		
角ナット	1		
座板	2		
ブラケット固定ねじ	3	なべ小ねじ WセムスM6×14	なべ小ねじ WセムスM6×14
ブラケット取付けねじ	2	—	十字穴付六角タッピンねじφ6×70

▲警告

●手すりの落下・転落防止のため、下記事項を厳守してください。

- 1.当製品は、木造躯体専用です。ALC・RC等の躯体には使用しないでください。
- 2.取付け前に必ず、柱・間柱・窓台の位置・寸法、外壁材・下地材の厚さを建築図面で確認してください。
- 3.連窓ブラケットは必ず柱に、指定のねじで取り付けてください。柱のない部分には取り付けないでください。
- 4.柱へのねじ込み深さは30mm以上確保してください。
- 5.壁厚が30mm以上の場合、厚壁用のねじを使用してください。
- 6.強度・防錆性を保つため、必ず指定の連窓ブラケット・ねじ類を、指定の数量使用してください。
- 7.外壁のパカ穴は、柱まであけないでください。
- 8.当製品の出幅調整は、30mm以内にしてください。
- 9.連結部の縦小棧間隔が110mm以上になる場合は、切落とし部の縦小棧を間に付け足して確実にねじ止めしてください。
- 10.手すりにのたたり足をかけたりしないでください。また、重いものをのせないでください。
- 11.躯体に下穴をあける場合は、ねじの外れ防止のため、φ6のねじにはφ4.5、φ5のねじにはφ3.5、φ4のねじにはφ3のドリルを使用してください。
- 12.手すり取付け後、笠木をゆすってガタツキのないことを確認してください。

■柱へのねじ込み深さ

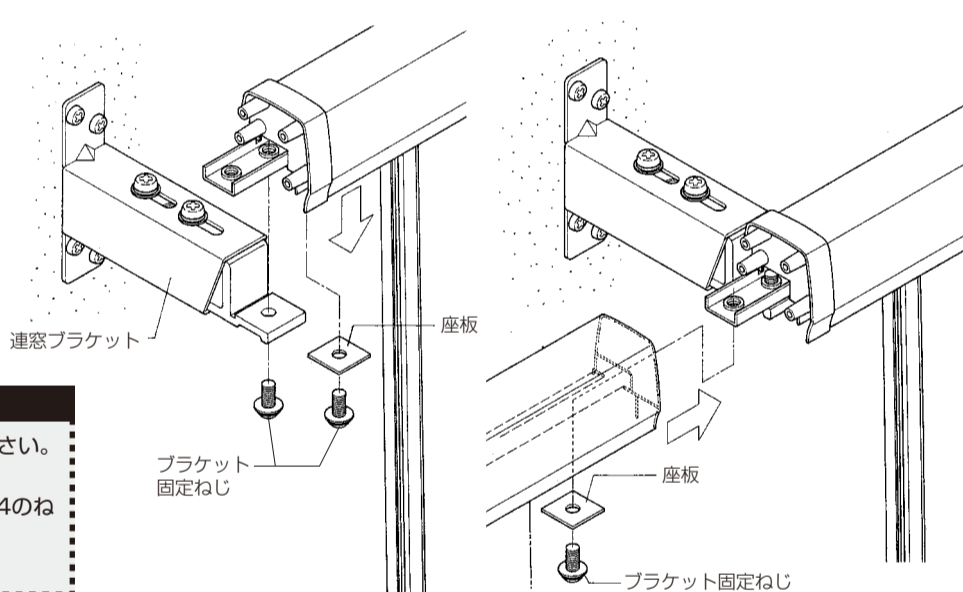
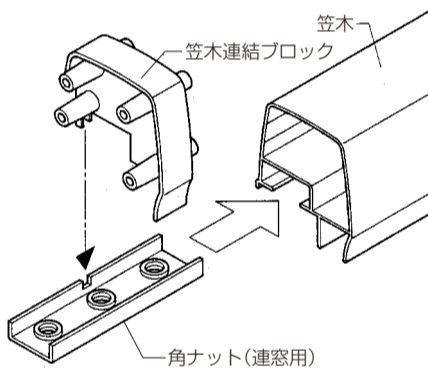


▲注意

●ねじ部からの漏水防止のため、躯体の下穴には、必ずコーキング材を充てんしてください。

■連窓部品の組立て・取付け

- 1連窓側の笠木サイドキャップと角ナットを外します。
- 2笠木連結ブロックを角ナット(連窓用)に引っかけ、一方の笠木に差し込みます。
- 3連窓ブラケットに仮止めし、もう一方の笠木をはめて固定します。
- 4笠木の水平・曲がりなどを調整した後、本固定します。



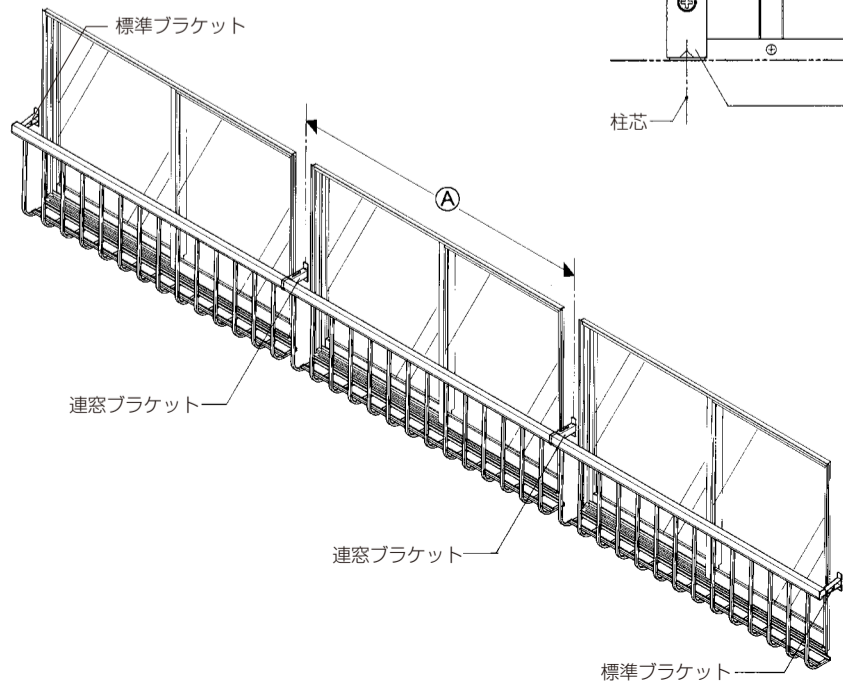
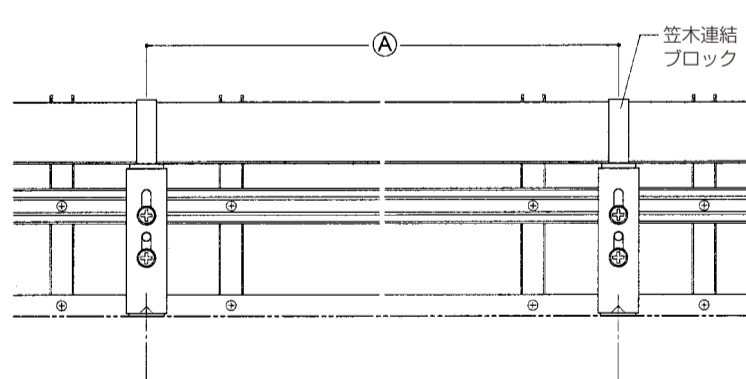
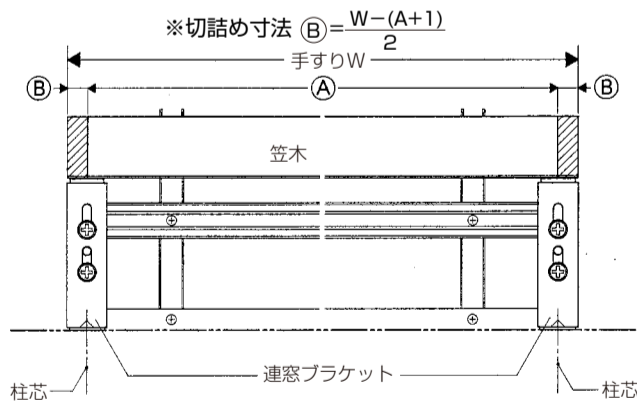
▲警告

- 連窓ブラケットは必ず柱に、指定のねじで取り付けてください。柱のない部分には取り付けないでください。
- 強度・防錆性を保つため、必ず指定の連窓ブラケット・ねじ類を、指定の数量使用してください。
- 躯体に下穴をあける場合は、ねじの外れ防止のため、φ6のねじにはφ4.5、φ5のねじにはφ3.5、φ4のねじにはφ3のドリルを使用してください。
- 手すり取付け後、笠木をゆすってガタツキのないことを確認してください。

■笠木の切詰め(3連窓以上の場合)

※3連窓以上の場合は、下記の要領で笠木の両端を切り詰めてください。

- 1柱芯に連窓ブラケットを取り付けます。
- 2中央の手すりのA寸法を実測し、下図の要領で笠木を切り詰めます。



▲警告

●サッシ呼称と手すり呼称が異なる場合、連結部の縦小棧間隔が110mm以上になる場合があります。その場合、切落とし部の縦小棧を間に付け足して確実にねじ止めし、縦小棧間隔を110mm未満にしてください。

